

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
令和6年11月28日

石狩湾沿岸における今漁期（令和7年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）※¹：4歳（2020年級）以上の大型・高齢主体。来遊量は「減少※²」
- 漁期中盤（2月）：上記に加え、3歳（2021年級）も来遊。来遊量は「横ばい」
- 漁期終盤（3月）：2歳（2022年級）も来遊し、小型中心に。来遊量は「増加」

※¹：序盤の来遊は資源状態以外の要因にも左右されます

※²：解析で4歳（2020年級）の資源量が少なく推定されていることから「減少」と判断されました。しかし今年の解析での4歳の資源量推定値は不確実性が高いことに注意が必要です。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査では、1歳（2023年級）もわずかに採集されましたが、大半は2歳（2022年級）以上で占められていました。2歳が最も多く（40%）、次いで4歳（2020年級、27%）、6+歳（～2018年級、12%）、3歳（2021年級、15%）、5歳（2019年級、5%）の順で多く採集されました。この調査結果が今漁期に来遊するニシンの年齢組成を反映していると仮定すると、今漁期の来遊の中心は2～6歳といえます。

2024年度に実施された資源評価では、今年度の資源量は前年度比で、3歳は「大きく増加」（5.9倍程度）、4歳は「大きく減少」（0.1倍程度）、5歳は「増加」（2.5倍程度）、そして6+歳は「減少」（0.4倍程度）と予測されています。2歳（2022年級）は、若齢のため資源解析に基づく予測が困難なので、トロール調査での採集状況を参考にしました。今年度の全調査点（3点）における2歳の平均採集尾数は昨年度と比べ同程度であったため「横ばい」といえます。

石狩湾系ニシンの来遊は、例年、漁期前半には高齢・大型魚が来遊し、漁期が進むにつれ、小型魚も沿岸へ来遊します。この特徴から考えると、漁期序盤（1月）は4～6歳中心、中盤（2月）は3～6歳中心、そして終盤（3月）は2～3歳が来遊の主体となるといえ、漁期序盤では4歳の資源量が大きく減少することから来遊は「減少」、中盤では4歳は大きく減少するものの3歳が大きく増加することから「横ばい」、そして終盤では3歳の増加に加え2歳が「横ばい」であることから「増加」と見込まれます。

4歳（2020年級）は昨漁期に3歳であまり漁獲されなかったこと等から、資源量が少ないと推定されました。一方で、昨漁期は4歳（2019年級）の資源量が多く、漁期を通じて漁獲の主体となったため、3歳であった2020年級があまり漁獲されなかった可能性も考えられます。このように、今漁期の4歳魚の資源量推定結果は不確実性が高いといえ、実際の資源量が推定値より大きい場合には序盤の来遊量は予測よりも上向き可能性があります。

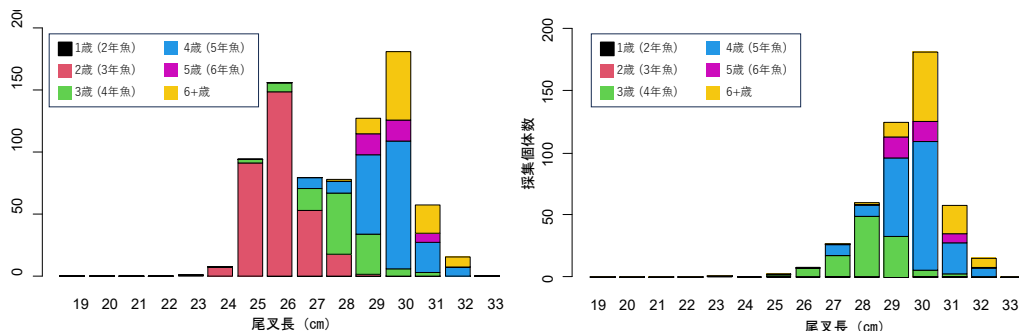


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成（各調査点（3点）での曳網距離1,000mあたり採集尾数の平均、右図は2歳を除いたもの）

お問い合わせ：道総研 中央水産試験場 資源管理部 ☎0135-23-8707